

令和6年度 事業報告書概要



いちほら社協マスコットキャラクター
よつばちゃん

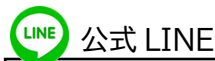
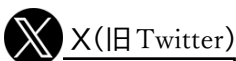
社会福祉法人市原市社会福祉協議会

市原市社会福祉協議会(市社協)は、地域福祉を推進することを目的とした団体として、市原市や関係機関・団体と連携しながら住民参加・住民主体による地域福祉活動を展開しています。

令和6年度は、景気が緩やかな回復傾向にあるものの、原油価格及び物価の高騰等により社会経済が不安定であり、多くの市民が生活に不安を抱えながら過ごす年となりました。

本会においては、生活に不安を抱える市民に対し、地域と連携して「気づく、つなぐ、見守る」ことに着眼した「いちほら地域連携型相談支援事業」の新設や、フードバンク活動や制服リユース活動による生活困窮者支援の拡充、地域・子ども食堂の活性化を含む子どもの居場所づくり事業の推進など、市内の特性・状況を踏まえた事業展開を図りました。

令和7年度においては、地区社協が中心となり策定した第2次地区行動計画の改定を予定しております。今後も時代の動きを踏まえ、市民が必要とする支援やサービスを充実させるため、本会と地域が連携した地域福祉活動の実践に取り組んでまいります。



社協の見える化・見せる化の推進

広報事業

[事業報告書 P1]

1. 機関紙「いちほら社協だより」の発行

発行部数 88,400 部(年 3 回)	
新聞折込	76,300 部
町会回覧	12,100 部



●いちほら社協だより

2. ホームページの運営

〇市原社協ホームページ:<http://www.ichihara-shakyo.or.jp>

年度	閲覧件数
R6	10,750 件
R5	9,325 件
増減	1,425 件



最新の情報を掲載し、市民に対する情報提供の迅速化を図りました。

3. SNS の運営

年度	閲覧件数			登録者数	視聴回数
	Facebook	X(旧Twitter)	Instagram	公式 LINE	Youtube
R6	9,464 件	5,106 件	7,117 件	395 名	1,035 回
R5	10,839 件	10,783 件	608 件	443 名	271 回
増減	△1,375 件	△5,677 件	6,509 件	△48 名	764 回



●Instagram



●Youtube

令和6年度は合計で 33,472 件のアクセスがあり、多くの方に閲覧いただきました。また、若い世代への新たな周知方法としてInstagramを活用し、社協の事業やイベント等を紹介しました。

財政基盤の充実・強化

トップセールスの推進

[事業報告書 P1]

1. 公的財源の確保

(1) 市長へのトップセールス

市長訪問	8月7日	1. 保健福祉センターの非公募化 2. 成年後見支援センターの体制強化 3. 総合計画及び地域福祉計画と整合した地域福祉活動計画の策定
------	------	---

正副会長による市長へのトップセールスを実施したことで、次年度の成年後見支援センター職員増員のための財源確保につながった。

社会福祉基金運用事業

[事業報告書 P2]

1. 普通預金 684,432 円

2. 定期預金及び債権

(1) 定期預金 50,000,000 円(定期預金及び債権については、預入金額の変動はありません)

(2) 債権

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価評価額	評価損益
千葉県第10回公募債	100,000,000	103,050,000	3,050,000
政府保証債第284回日本高速道路保有債務返済機構債	100,000,000	83,920,000	△16,080,000
合計	200,000,000	186,970,000	△13,030,000

※債権は満期保有としているため、満期時には帳簿(額面)価額償還となります

社会福祉基金総額

252,432,018 円

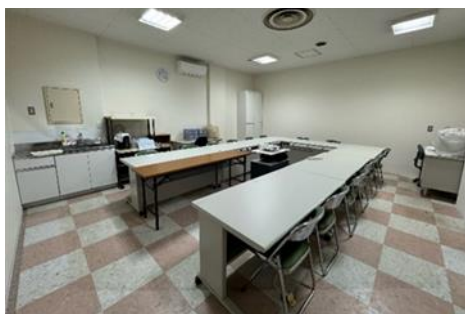
社会福祉基金の活用

[事業報告書 P2]

1. 地区社協拠点等整備

令和 6 年度助成額

3,267,156円(10 地区)



●有秋地区社協



●五井地区社協

2. 地区社協事務局運営経費

助成金額	備考
160,000×12 地区=1,920,000 円	1地区年額 160,000 円

3. 地区社協車両貸与事業

地区名	車両リース代	備考
辰巳台	198,000円	日常生活支援事業コーディネート業務として使用
有秋	122,430 円	日常生活支援事業コーディネート業務として使用



地域における地域福祉活動の基盤を強化するための財源として、社会福祉基金 5,507,586 円を活用しました。

トップマネジメントの強化

組織運営事業

[事業報告書 P5]

1. 各会議体の開催

会議体	実施回数
正副会長会	12回
市長訪問	1回
理事会	4回
評議員会	4回
常任委員会	2回
評議員選任・解任委員会	3回
地域福祉活動計画推進本部会議	12回
役員研修会	1回



理事会における ZOOM を活用したオンライン参加の定着と、各会議体においては議案に対する質問だけでなく、建設的な意見・提案がなされるなどの活性化が図られました。

地域の誰もが互いに支え合うコミュニティづくり【共感】

福祉意識の醸成

〔事業報告書 P7〕

1. 「いちほらフードネットワーク」(市原市独自のフードバンク)の推進

年度	令和 6 年度	令和5年度	増減
食品受け入れ数	10,516 品	7,459 品	3,057 品
食品受け入れ重量	5,669.25kg	3,871.32kg	1,797.98kg
食品提供数	7,419 品	7,672 品	△253 品
食品提供重量	4,590.9kg	3,005.34kg	1,585.56kg
R6 年度内容	・食料の支援が必要な世帯に対し、無償で食品を提供 ・地域・子ども食堂への支援 ・生活困窮者への支援 ・イトーヨーカドーアリオ市原店・姉崎店とフードドライブ実施に関する覚書、マックスバリュ辰巳台店と食品の提供・譲渡に関する合意書、生活協同組合コープみらいと食品等の寄付に関する覚書を交わし、店舗等に食品寄付を募集する BOX を設置 ・新たにベイシア市原八幡店と令和7年5月からの食品の提供・譲渡に関する合意書の締結に向けた調整協議		

継続的に食品の受入・提供(配布)活動であるフードドライブ・フードバンクの取組を通じ、既存の(株)イトーヨーカ堂、マックスバリュ関東(株)、生活協同組合コープみらいに加え、新たにベイシア(株)とのつながりの構築が図れた。また、本会の窓口相談を通じた困窮世帯への配布や地域関係者を通じて必要な世帯へ配布する独自のパントリー活動の拡充につながりました。

2. フードパントリーの開催 〔事業報告書 P7〕

▶ 市社協主催「よつばちゃんのフードパントリー」

期日	11 月 23 日(土)
場所	市原市三和保健福祉センター
参加者	市内在住で食品の提供を希望する子育て世帯(計 45 世帯)
内容	・地域住民や企業・商店等のご厚意により寄付いただいた食品の無償配布 ・いちほら生活相談サポートセンターによる出張相談 ・いちほら地域・子ども食堂ネットワークによる軽食提供(げんき食堂アネッサ、地域食堂わいわい、地域食堂「コンパス」、こども食堂ごい 51) ・ボランティアグループによる遊び場の提供(おもちゃ図書館「かるがも」、シルバー友の会)

▶ 地域主催「フードパントリー」

実施地区	辰巳台地区	千種地区	国分寺台地区
回数	24 回	4 回	4 回



地域住民や企業等に呼び掛け多数の食料品等の寄付を得ることができました。また、今年度は地域・子ども食堂ネットワークに加入する4団体と子どもの遊び場支援を行っているボランティアグループにも協力いただき、それぞれの活動の周知を図るとともに軽食及び遊び場の提供を行いました。本事業の実施にあたり、地区社協、小域福祉ネットワークや町会長会等の地域団体、いちほら生活相談サポートセンター等の専門機関等と連携して実施したことで今後の支援に向けた連携体制構築の契機となりました。

また、地域主催のフードパントリーを3地区で32回実施し、「困ったときはお互いさまの地域づくり」の輪が少しずつ広がってきています。

3. 制服リユース事業の施行実施 [事業報告書 P8]

実施主体	主な取り組み	令和6年度実績
市原市社会福祉協議会 国分寺台地区社会福祉協議会	・地区内小中学校へのチラシ配布(広報) ・制服寄贈の受付 ・制服譲渡会の開催	寄贈:34 着 譲渡:35 着
姉崎地区社会福祉協議会	・地区内小中学校へのチラシ配布(広報) ・制服寄贈の受付 ・制服譲渡会の開催	寄贈:133 着 譲渡:47 着
市東第一小学校区 小域福祉ネットワーク	・地区内小中学校へのチラシ配布(広報) ・地区内町会等へのチラシ回覧(広報) ・制服寄贈の受付 ・希望者への制服譲渡	寄贈:5 着 譲渡:3 着
南総地区社会福祉協議会	・地区内小中学校へのチラシ配布(広報) ・福祉バザーを活用した制服譲渡	寄贈:26 着 譲渡:15 着
ちはら台地区社会福祉協議会	・地区内小中学校へのチラシ配布(広報) ・地区内自治会等へのチラシ回覧(広報) ・福祉バザーを活用した制服譲渡	寄贈:3 着 譲渡:144 着



身近な地域で困りごとを抱える子育て家庭を支えるため、地区社協、小域福祉ネットワークが地区内の小・中学校、市民活動団体などと連携し、家庭や地域住民等への寄贈の呼び掛けを行うことで、5つの地区で活動展開しました。また、配布を通じて支援を必要とする子育て家庭とのつながりを持つことができました。

4. 共生型サロン事業の推進 [事業報告書P9]



年度	開催日数	延参加者数
R6年度	719 日	11,811 名
R5年度	597 日	11,133 名
増減	122 日	678 名

地域共生社会づくりに向けあらゆる世代の交流を育むため、地域の誰もが気軽に参加し活躍できる「共生型サロン事業」を市内60会場で実施し、延べ 11,811 名の方々が参加(利用)し、住民同士の交流やつながりを促進する契機となりました。

5. 子どもの居場所づくりの推進 [事業報告書P10]



●地域・子ども食堂

●地域・子ども食堂ネットワーク連絡会

(1) 地域・子ども食堂、学習支援活動等

地区	名称	開催日数	参加者数	支援者数
辰巳台	地域・子ども食堂 だんだん	12日	1,025 名	313名
国分寺台	地域食堂コンパス	22日	379名	252名
国分寺台	トリノス	17日	54名	61名
姉崎	げんき食堂アネッサ	9日	154名	149名
千種	地域食堂わいわい	12日	207名	197名
五井	子ども食堂ごい51	9日	111 名	110名
有秋	あそびの広場	10日	215名	171名

年度	開催日数	延参加者数	延支援者数
R6年度	91日	2,145名	1,253名
R5年度	59日	2,432名	669名
増減	32日	△287名	584名

(2) いちはら地域・子ども食堂ネットワーク

項目	期日	参加団体数	内容
第1回連絡会	9月9日	10団体	・広報用リーフレットとホームページの更新 ・地域・子ども食堂の立ち上げ支援 など
研修会	12月8日	8団体	【第1部:講演】「地域・子ども食堂でななに？」 (千葉県子ども食堂連絡会 代表 高橋 亮 氏) 【第2部:活動発表】 ・市内の地域・子ども食堂実践団体の活動紹介 【閉会后】 ・市内の地域・子ども食堂実践団体とのマッチング交流会
第2回連絡会	3月10日	11団体	・地域・子ども食堂立ち上げ運営マニュアルの整備 ・令和7年度事業計画(案) ・のぼり旗作成について など
千葉県子ども食堂ネットワーク会議	11月6日	—	【実態調査報告】 ・実態調査結果と千葉県子ども食堂サポートセンター事業概要 【基調報告】 ・全国及び千葉県の子ども食堂とそれを取り巻く状況 【実践団体による事例発表】
その他	随時		・相談(新規立上げ・活動の参加について) 26件 ・助成金案内、申請支援 7件 ・食品寄附の引渡し 14団体 71件 ・広報用リーフレットの配布 3,000部

市原市内の地域・子ども食堂の活動団体や活動を始めたいと考えている団体がお互い交流し、情報交換等を行う場である「地域・子ども食堂ネットワーク」の事務局を市社協が担うことで、連絡会や研修を通じ活動の推進や住民への周知を図ることができました。

小地域福祉活動の推進

1. 地区社協の活動・運営支援 [事業報告書 P12]

(1) 各会議体の実施概要

年度	開催日数	延参加者数
R6年度	305日	3,636名
R5年度	307日	3,657名
増減	△2日	△21名



各種会議や事業等に地区担当職員が参加し、地域福祉活動の実践に関する相談や必要な情報提供を行い、地域特性を踏まえた活動の促進につながりました。

(2)地区社協連絡会の開催

項目	期日	内容
第1回	5月21日	(1)市原市社会福祉協議会評議員候補者の選出について (2)地区社協推進事業補助金交付要綱(案)について など
第2回	7月30日	(1)令和6年度歳末たすけあい運動協力事業について (2)令和6年度市原市地域福祉関係者合同研修会について など
第3回	9月24日	(1)令和6年度歳末たすけあい運動協力事業について (2)令和6年度地域福祉支援事業について など
第4回	11月26日	(1)地区社協運営費補助金交付要綱及び先駆的・開拓的事業補助金交付要綱制定の考え方について (2)第6次市原地域福祉活動計画及び第2次地域福祉行動計画の改訂スケジュールについて など
第5回	1月30日	(1)地区社協推進事業補助金に係る地区社協予算・決算等の取扱いについて (2)地区社協運営費補助金交付要綱(案)及び先駆的・開拓的事業補助金交付要綱(案)について など
第6回	3月14日	(1)令和7年度地区社協補助金積算額(案)について (2)第2次地区行動計画の改定について など

地区社協連絡会を定期的に開催し、地区社協と市社協とが同じ方向性のもと事業展開が図れるよう意見交換をすることで、活動についての共通理解・共通認識につながりました。

2. 小域福祉ネットワークの活動・運営支援 [事業報告書 P15]

(1)各会議体の実施概要

年度	開催日数	延参加者数
R6年度	353日	4,966名
R5年度	359日	5,093名
増減	△6日	△127名



●推進委員会



●登下校時の見守り活動



●世代間交流事業



各種会議や事業等に地区担当職員が参加し、様々な地域課題を踏まえた活動の実践に関する相談や必要な情報提供を行い、地域特性を踏まえた活動の促進につながりました。

(2)いちほら小域福祉ネットワーク連絡会議の開催

項目	期日	議題
第1回	10月8日	・レクリエーション支援の方法について 講師:千葉県レクリエーション指導者クラブ市原支部 代表 茂木きよ子氏 ・意見交換会(グループワーク)

第2回	2月18日	・実践発表 ①フードパントリー活動について:千種小学校区小域福祉ネットワーク ②制服リユース活動について:市東第一小学校区小域福祉ネットワーク ③買い物支援活動について:青葉台小学校区小域福祉ネットワーク ・意見交換(グループワーク)
-----	-------	---

年2回の連絡会議を通じて、第6次活動計画に基づく共生型サロン等の居場所づくりを推進するため気軽に取り組めるレクリエーションをテーマとする意見交換や地域の様々な課題を把握し、その解決に向けた実践報告などから、ネットワークの活動の役割や必要な視点について理解を深めることができました。

(3)地域福祉関係者合同研修会の開催

期日	令和6年9月19日(木)
場所	市原市市民会館 大ホール
参加者	506名
内容	【講演】「人と人、人と社会がつながる地域の居場所」 講師:立命館大学 共通教育推進機構 准教授 小辻 寿規 氏

令和6年4月に施行された「孤独・孤立対策推進法」を学ぶとともに、本対策の重要なテーマの一つである「居場所」について、その役割や機能を考える機会となりました。

地域のつながりを豊かにするための仕組みづくり【共創】

地域で孤立させない取組の強化

1. 寄り添い支えていく体制の強化

(1)新たな相談支援体制の構築【いちほら地域連携型相談支援事業】 [事業報告書 P18]

①市社協相談窓口

年度	生計	職業 生業	教育 子育て	障がい	療養 健康	生活	償還	その他	合計
R6 年度	276 件	1 件	165 件	3 件	0 件	9 件	41 件	1 件	496 件
R5 年度	282 件	4 件	180 件	8 件	3 件	21 件	53 件	15 件	566 件
増減	△6 件	△3 件	△15 件	△5 件	△3 件	△12 件	△12 件	△14 件	△70 件

②各地区における相談支援事業

年度	開催地区	開催日数	延相談者数	延支援者数
R6年度	12地区	907日	444名	1,101名
R5年度	11地区	939日	750名	1,168名
増減	1地区	△32日	△427名	△67名

本会の相談窓口では、経済的な課題を抱える世帯に、生活福祉資金貸付(緊急小口資金等)の相談を切り口とし、専門機関等と連携し生活の改善に向けた支援に努めました。地域での相談支援活動では、住民に身近な場における困りごと相談の実施や地域の関連団体とのつながりを活かし、住民の異変に早期に「気づく」、必要な支援に「つなぐ」、その後の生活を緩やかに「見守る」一連の相談プロセスに基づく地域密着型の相談支援活動を展開しました。また、複数の地区で課題のある事例を個別に検討する「ケース」会議を試行的に実施しました。

(2) 民生委員・児童委員活動の支援 [事業報告書 P19]

内容	回数等	内容	回数等
正副会長・部会長会の開催	5 回	会計監査の実施	1 回
理事会の開催	2 回	代議員会の開催	1 回
地域福祉推進部会の開催	3 回	主任児童委員部会の開催	3 回
市民児協全体研修会	1 回	理事研修会	1 回
地域福祉推進部会・主任児童委員部会合同部会	1 回	その他研修会、会議等の参加等	13 回

地域福祉推進部会と主任児童委員部会で検討してきた相談支援体制の充実強化に向けて、全ての地区民児協で「チーム・班体制」の活性化と定例会にて多様な事例を用いた検討を行い、委員の資質向上と新任委員へのフォローアップを図りました。また、相談の入り口を拡充するため、主任児童委員部会を中心に放課後児童クラブ・地域での子ども居場所へアプローチを行い、顔の見える関係づくりに努めました。

(3) 安心生活見守り支援事業 [事業報告書 P21]

年度	実施数	見守り希望者数	安心訪問員数	延訪問回数
R6 年度	41 ネットワーク (43 小学校区)	998 名	997 名	16,059 回
R5年度	41 ネットワーク (43 小学校区)	1,095 名	1,010 名	16,843 回
増減	—	△97 名	△13 名	△784 回



定期的に一人暮らし高齢者や高齢者世帯を対象とし、安心訪問員による声掛け・安否確認、防犯情報の提供等を通じた見守り訪問活動を実施し、対象者に安心感をもたらすとともに、孤立防止に向けた一助を担うことができました。

(4) 地域福祉支援事業 [事業報告書 P21]



種別	R6 年度		R5 年度		増減	
	団体数	助成額	団体数	助成額	団体数	助成額
導入型	3 団体	120,000 円	7 団体	280,000 円	△4 団体	△160,000 円
交流型	24 団体	1,380,000 円	19 団体	1,052,000 円	5 団体	328,000 円
個別(訪問)支援型	13 団体	775,000 円	11 団体	650,000 円	2 団体	125,000 円
合計	40 団体	2,275,000 円	37 団体	1,982,000 円	3 団体	293,000 円

歳末たすけあい運動の財源を活用し、歳末の時期に特化して実施する「地域福祉支援事業」を地区社協や小域福祉ネットワーク40団体が実施しました。身近な地域での住民同士の交流、災害、個別支援型の取り組みなど多様な福祉活動が実施され、その後の地域福祉活動の活性化の契機となりました。

(5)地域主体の子どもの見守り強化事業 [事業報告書 P22]

地区	年度	延活動者数	訪問家庭数	延訪問数
ちはら台	R6 年度	77 名	14 世帯	50 回
千種	R6 年度	89 名	14 世帯	46 回



●報告会

今年度から新たに千種地区でも取組が開始され、行政から提供された情報のもと対象世帯を戸別訪問し未就学児の状況を確認するとともに、地域イベントやサロン活動などの情報提供を行うことで、地域と子育て世帯の交流が生まれ、地域で主体的・継続的に子どもを見守る気運上昇につながりました。

(2)生活を支えるための体制の強化

①生活支援体制整備事業の推進 [事業報告書P22]

- ・地域に不足するサービス創出に向けた地域アセスメント(資源・ニーズ調査、ケース会議)
- ・地域で必要なサービスの創出(住民参加型の生活支援サービス、人と資源とのマッチング)
- ・サービスの担い手の育成(元気な高齢者の活躍の場づくり、活動支援者の意識調査)
- ・サービス提供主体、地域活動団体・専門機関の連携体制構築(ネットワークづくり)
- ・その他事業全般の充実強化(関係者フォローアップ研修・会議開催)



●移動販売の展開



●日常生活支援事業



●フォローアップ会議

千種地区社協が設置されたことに伴い、第2層協議体の設置に向けて勉強会の企画・開催を行い、令和6年11月に千種地区第2層協議体の設置が完了しました。また、第2層 SC・協議体関係者で把握した地域での困りごとを契機に、新たに五井地区で高齢者等を支える日常生活支援事業の仕組みづくりの検討やマックスバリュ関東(株)と連携した移動販売の導入につながりました。第1層 SC を中心に、専門アドバイザーと連携したフォローアップ研修や会議を実施し、SC・協議体関係者の事業推進に向けた意識醸成に努めました。

②各種資金貸付事業 [事業報告書 P23]

(ア)生活福祉資金貸付事業

	区分	相談件数	貸付件数(決定)	貸付金額	備考
令和6年度	生活福祉資金貸付事業	219 件	122 件	26,470,400 円	県社協事業
	療養資金貸付事業	3 件	3 件	276,000 円	市受託事業
	福祉資金貸付事業	7 件	5 件	62,000 円	市社協事業
令和5年度	生活福祉資金貸付事業	256 件	161 件	42,789,700 円	県社協事業
	療養資金貸付事業	3件	2 件	280,000 円	市受託事業
	福祉資金貸付事業	5 件	3件	37,000 円	市社協事業

(イ)応急法外援護

年度	相談件数	交付金額
R6 年度	32 件	81,930 円
R5 年度	67 件	183,770 円
増減	△35 件	△101,840 円

経済的な課題を抱える世帯に対し、家計の改善や安定した生活に向けた必要な資金を貸付けることで、世帯の自立に向けた一助となりました。また、本会が実施する「いちほらフードネット」と連携した現物給付により、金銭のみならず生活の状況に応じた支援を行いました。

(ウ)特例貸付債権管理事業

種別		令和6年度	令和5年度	内容
相談 受付	受電相談	181 件	156 件	借受人から受電し、受付した相談件数
	来局相談	73 件	35 件	借受人が来局し、受付した相談件数
アウト リーチ	架電相談	469 件	277 件	市社協から架電し、対応した相談件数
	訪問回数	454 件	305 件	借受人宅を訪問した回数
	訪問相談	77 件	57 件	借受人宅を訪問し、対応した相談件数(後日対応含む)

償還が滞る借受人を中心に、積極的に電話や訪問等によるアウトリーチを行い、個々の生活状況に応じた償還方法の再考や家計・生活改善に向けた助言、必要な支援へのつなぎなど、フォローアップに係る支援を行いました。

③日常生活支援事業 [事業報告書 P25]

(ア)住民参加型在宅福祉サービス

地区(名称)	令和6年度			令和5年度		
	活動件数	延利用者数	延支援者数	活動件数	延利用者数	延支援者数
辰巳台(たすけあい辰巳ねこの手)	1,086 件	1,086 名	1,411 名	328 件	969 名	1,175 名
ちはら台(たすけあい隊)	276 件	276 名	263 名	222 件	248 名	263 名
三 和(たすけあい三和)	373 件	373 名	529 名	440 件	315 名	608 名
有 秋(くらしのささえあい)	190 件	190 名	488 名	766 件	418 名	1,176 名
市 津(市津まごの手)	164 件	164 名	412 名	146 件	146 名	399 名
国分寺台	4 件	4 名	15 名	6 件	6 名	18 名
姉崎(姉崎チョコっとサービス)	101 件	101 名	110 名	92 件	50 名	20 名
南 総(ささえあい南総)	6 件	6 名	14 名	4 件	4 名	14 名
加 茂(草刈り助け合い作業活動)	27 件	27 名	73 名	8 件	9 名	26 名
合計	2,227 件	2,227 名	3,350 名	2,012 件	2,165 名	3,699 名
増減	215 件	62 名	△349 名			

(イ)事業化・活性化サービス

地区	実施日数	延利用者数	延支援者数
辰巳台	24 日	227 名	24 名
市 津	24 日	560 名	138 名
有 秋	67 日	503 名	133 名
三 和	42 日	338 名	127 名
姉 崎	11 日	91 名	22 名



●社会福祉施設の協力による
買い物ツアーの実施

年度	実施地区	開設日数	延利用者数	延支援者数
R6 年度	5地区	168 日	1,719 名	444 名
R5 年度	5 地区	106 日	1,139 名	303 名
増減	0 地区	62 日	580 名	141 名

住民参加型在宅福祉サービスは、地域ニーズ等を踏まえ9地区で事業展開がなされ、新たに五井地区では仕組みづくりを検討し事業創出につながりました。事業化・活性化サービスにおいては、5地区で社会福祉法人と連携し買い物ツアー実施しました。

④いちほらファミリー・サポート・センター事業 [事業報告書 P26]

年度	延相談 件数	利用会員 登録者数	協力会員 登録者数	両方会員 登録者数	活動 件数
R6 年度	71 件	279 名	69 名	27 名	585 件
R5 年度	86 件	285 名	66 名	29 名	572 件
増減	△15 件	△6 名	3 名	△2 名	13 件



●ファミリー・サポート・センター
預かり支援の様子

⑤出産前後家事等サポート事業 [事業報告書 P27]

年度	延相談 件数	実利用 者数	延利用 回数	延利用時間	活動 件数
R6 年度	55 件	176 名	526 回	1,024 時間	983 件
R5 年度	49 件	113 名	347 回	683 時間	837 件
増減	6 件	63 名	179 回	341 時間	146 件



●出産前後家事等サポート事業
家事支援の様子

本会で行う子育て支援事業として、引き続き多くの悩みを抱える子育て世帯に対して寄り添った支援に努めました。両事業間や子育てに関する他機関と連携することで、より利用者にとって使いやすく、また支援が必要な世帯へ情報が届くよう今後も取組を進めていきます。

⑥居宅介護支援事業 [事業報告書 P30]

区分	R6 年度延べ利用数	R5年度延べ利用数	増減
要介護	1,326 名	1,191 名	135 名
介護予防	492 名	338 名	154 名
合計	1,818 名	1,529 名	289 名

ケアマネジメント業務によるケアプランの作成とサービス調整を行うとともに、業務を通じ把握した複雑な課題を抱える利用者に対し、市(行政)担当課や地域包括支援センター、本会の各部門や地区担当職員などと連携した支援を行った。

地域福祉力の向上

[事業報告書 P31]

1. 地区行動計画の推進

地区	名称	開催日数		増減
		R6年度	R5年度	
姉崎地区	姉崎地区福祉行動計画推進委員会	1回	1回	—
五井地区	五井地区行動計画推進委員会	1回	1回	—
市原地区	市原地区行動計画推進委員会	3回	2回	1 回
辰巳台地区	辰巳台地区行動計画推進委員会	4回	3回	1 回
市津地区	市津地区地域福祉行動計画推進委員会	6回	4回	2 回
三和地区	三和地区行動計画推進委員会	1回	—	1 回
南総地区	南総地区行動計画推進委員会	4回	3回	1 回
加茂地区	加茂地区社協役員会・理事会 (地区行動計画推進委員会機能を担う)	1回	1回	—
有秋地区	有秋地区行動計画推進委員会	4回	6回	△2回
ちはら台地区	ちはら台地区福祉行動計画推進委員会	1回	1回	—
国分寺台地区	支え合いのまちづくり計画推進委員会	2回	3回	△1 回
千種地区	地区行動計画策定に向けた打合せ会実施	2回	—	2回

※「第2層協議体」と機能が混在していることもあり、地区によっては委員を兼務し、両会議を一体的に開催、運営しました。(姉崎、五井、三和、加茂、ちはら台地区は推進委員会を単独で開催)

※千種地区は、新設地区のため次年度中に推進委員会設置予定。

各地区で「第2次地区行動計画」に基づく取組を推進するとともに、各地区の「地区行動計画推進委員会」にて、「市地域共生社会推進プラン」や「第6次地域福祉活動計画」との整合を図り改定する現行動計画に関する評価・検証を実施しました。評価・検証を通じて「第3次地区行動計画」の課題や目指す方向性の共通理解を図りました。

また、市地域共生社会推進プランの改定に向けたワークショップを各地区で実施し、地域課題の洗い出し、共有に努めました。

2. 社会福祉法人の公益的な取組みとの連携 [事業報告書 P32]

高齢者福祉分野の社会福祉法人が中域福祉圏ごとに設置している「地区行動推進委員会」や「第2層協議体」へ19法人が定期的に参加し、地域生活課題の共有を図りました。

地域で安心して幸せに暮らすための基盤づくり【共生】

地域で活躍する人材の育成

1. ボランティア活動の推進 [事業府報告書 P32]

(1) ボランティア活動に関する相談・コーディネート

相談内容	R6 年度	R5年度	増減
活動希望、活動中の問題に関すること	57 件	38 件	19 件
派遣依頼に関すること	113 件	100 件	13 件
その他	60 件	57 件	3 件
合計	230 件	195 件	35 件

(2) 登録ボランティア

区分	R6 年度	R5年度	増減
ボランティアグループ	150 団体 (3,500 名)	159 団体 (3,437 名)	△9 団体 (63 名)
個人ボランティア	156 名	153 名	3 名
災害ボランティア	119 名	102 名	17 名

(3) 講座等

区分	R6年度		R5年度		増減	
	実施回数	参加者	実施回数	参加者	実施回数	参加者
子育て支援者交流会	1 回	82 名	1回	78 名	-	4 人
傾聴ボランティア養成講座	1 回	41 名	-	-	-	-
日常生活支援事業担い手養成講座	1 回	28 名	-	-	-	-
送迎ボランティア養成講座	2 回	15 名	1回	15 名	1 回	-
福祉教育出前講座	11 回	771 名	14 回	1,035 名	△3 回	△264 回



●傾聴ボランティアフォローアップ講座



●送迎ボランティア養成講座

新型コロナウイルスの影響もある中で、徐々に活動が再開され登録者数は増加傾向となりました。傾聴ボランティア養成講座では、新たに9名が傾聴活動を行うグループに加入し、福祉施設や個人宅での活動につながりました。また、地区社協を中心に展開する日常生活支援事業の養成講座では、地区ごとに活動実践者と受講者との交流の機会を設けたことで、6名の活動者を確保することができました。

権利擁護の推進

[事業報告書 P36]

1. 市原市成年後見支援センター運営事業(市受託事業)

○成年後見制度相談・利用促進事業

相談・支援件数	一般相談等	専門相談	調整会議	合計
R6 年度	3,134 件	22 件	18 件	3,174 件
R5 年度	2,149 件	28 件	16 件	2,193 件
増減	985 件	△6 件	2 件	981 件

○内訳

相談・支援件数	電話相談	郵便・メール	訪問相談	来局	ケース会議	調整会議	その他	合計
R6 年度	1,927 件	333 件	730 件	152 件	11 件	18 件	3 件	3,174 件
R5 年度	1,364 件	202 件	464 件	140 件	7 件	16 件	0 件	2,193 件
増減	563 件	131 件	266 件	12 件	4 件	2 件	3 件	981 件

制度概要や申立書類の書き方等、法律的な助言を必要としない相談について、職員による一般相談を実施

2. 専門相談の内訳

○会場:社協事務局 毎月1回 13:30~16:30

相談件数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
R6 年度	0 件	3 件	2 件	3 件	0 件	1 件	2 件	2 件	2 件	2 件	2 件	3 件	22 件
R5 年度	1 件	2 件	1 件	1 件	1 件	3 件	3 件	3 件	2 件	1 件	3 件	3 件	24 件
増減	△1 件	1 件	1 件	2 件	△1 件	△2 件	△1 件	△1 件	0 件	1 件	△1 件	0 件	△2 件

○会場:なのはな館 年2回 13:30~16:30

相談件数	6 月	10 月	計
R6 年度	3 件	2 件	5 件
R5 年度	2 件	2 件	4 件
増減	1 件	0 件	1 件

※弁護士による専門相談

相談者1名あたりの相談時間:60分

1日の相談枠数:3枠

センターに寄せられる相談は複雑、かつ困難なケースが増えていますが、中核基幹として、関係機関との協力・連携を図りながら対応、支援することができました。

3. 調整会議の開催

制度利用の要否や受任者調整、ケース検討について、弁護士と市関係機関で構成された「調整会議」を実施

月	参加者数	内容				計	R5 年度	増減
		市長申立	ケース検討	法人後見受任	経過報告			
4 月	12名	0件	0件	1件	0件	1 件	1 件	0 件
5 月	9 名	1件	0件	0件	0件	1 件	1 件	0 件
6 月	〈開催中止〉						0 件	0 件
7 月	〈開催中止〉						2 件	△2 件
8 月	11 名	2件	1 件	0件	0件	3 件	0 件	3 件
9 月	9 名	1 件	0件	0件	0件	1 件	0 件	1 件
10 月	12 名	1件	0件	0件	0件	1 件	1 件	0 件
11 月	11 名	2件	0件	0件	0件	2 件	2 件	0 件
12 月	12 名	2件	0件	0件	0件	2 件	2 件	0 件
1 月	〈開催中止〉						5 件	△5 件
2 月	〈開催中止〉						0 件	0 件
3 月	11 名	2 件	0 件	0件	0件	2件	2 件	0 件
計	87 名	11 件	1 件	1 件	0件	13 件	16 件	△3 件

4. 広報啓発活動

- ・パンフレット作成、広報紙での PR 活動
- ・施設、各種団体の依頼を受け、研修会、セミナーにて啓発活動を実施(12 会場)



5. 協議会運営事業

司法・医療・福祉等の地域連携体制を構築し、行政機関、関係機関等及び専門職と意見交換、協議を実施

期日	場所	参加者	協議内容
7 月 30 日(火)	事務局	24 名	・市原市成年後見支援センターの機能と推進事業 ・令和 5 年度活動報告と課題の検討 ・市原市成年後見制度利用促進調整会議の活用
2 月 4 日(火)	事務局	22 名	・市原市成年後見支援センターの機能と推進事業 ・地域連携ネットワークの強化

6. 法人後見

○法人後見受任件数

区分	R6 年度				R5 年度	増減
	後見人	保佐人	補助人	受任件数	受任件数	
高齢者	4 件	3 件	2 件	9 件	11件	△2 件
知的障がい者	2 件	0 件	0 件	2 件	1件	1 件
精神障がい者	0 件	1 件	1 件	2 件	2件	0 件
その他	0 件	0 件	0 件	0 件	1件	△1 件
合計	6 件	4 件	3 件	13 件	15件	△2 件

7. 市民後見人フォローアップ養成講座(新規)

後見人活動に必要な基礎知識を習得し、市民後見人として活動できる人材を育成することを目的として昨年度養成講座を受講修了した 20 名を対象にフォローアップ研修を実施



期日	場所	参加者	内容
4 月 24 日(水)	千葉県社会福祉協議会	10 名	生活支援員養成研修会
6 月 19 日(水)		3 名	
9 月 28 日(土)	事務局	15 名	①在宅高齢者、障がい者の消費被害と対応 ②支援者における(聴く)支援力とは
3 月 15 日(土)	事務局	12 名	①将来にそなえる厚生省証と公証役場の役割について ②意思決定支援について(グループワーク)
通年	市内	12 名	本会契約者等への同行支援及び実務研修

市民後見人養成講座修了者に対して、フォローアップ研修(座学、実務研修)を実施し、社協の支援員として 10 名が単独で活動に就くことができました。

8. 福祉サービス利用援助事業

○新規相談・利用件数

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	R5 年度	増減
新規相談件数	75 件	4 件	12 件	11 件	102 件	129 件	△27 件
新規契約件数	22 件	2 件	5 件	2 件	31 件	44 件	△13 件

○訪問・相談支援件数(3月末時点の契約者数 122 名)

計画に基づく訪問支援件数	相談支援件数	支援合計	R5 年度	増減
1,502 件	4,498 件	5,848 件	5,430 件	418 件



センターへの新規相談において、福祉サービス利用援助事業に関する相談は多く、R6年度末の契約者数は千葉市に次いで県内2位となっています。本制度が在宅生活を支えるひとつのツールとして広く認識され、支援を通じ、地域福祉活動の増進を図ることができました。

災害対応力の向上

[事業報告書 P39]

1. 災害ボランティアの育成・確保

(1) 講座等



●災害ボランティア養成講座
(ステップアップ編)



●災害ボランティアセンター
設置運営訓練

区分	R6 年度		R5 年度		増減	
	回数	参加者	回数	参加者	回数	参加者
災害ボランティア養成講座(基本編)	1 回	57 名	1 回	52 名	-	5 名
災害ボランティア養成講座(ステップアップ編)	1 回	51 名	1 回	36 名	-	15 名
災害ボランティアセンター設置運営訓練	1 回	95 名	1 回	90 名	-	5 名
市原市災害ボランティア活動連絡調整会議	4 回	41 名	5 回	37 名	△1 回	4 名

引き続き、各種講座を通じて災害時のマンパワー育成・確保に取り組むとともに、訓練を通じてセンター運営の流れやそれぞれの組織・団体等の役割を再認識し、センター運営マニュアルの見直しを図る機会となりました。

今後も、講座・訓練を通じて地域関係者や事前登録ボランティアとの連携・協働体制を構築し、センターの体制強化を図っていきます。

指定管理施設の運営

老人福祉センター

[事業報告書 P42]

○利用人数

区 分	R6 年度	R5 年度	増 減
老人福祉センター	15,348 名	16,391 名	△1,043 名
開館日数	292 日	281 日	11 日
1日当たりの利用人数	52.6 名	58.3 名	△5.7 名



●囲碁教室



●絵手紙教室



●生花教室

日頃から声掛け等、利用者とのコミュニケーションを欠かさず、気持ちよく利用できる環境づくりに努めており好評を得ることができました。また、利用者同士が交流しながら行える健康体操・ラジオ体操は、楽しみながら続けられる運動として参加する利用者が増えています。

姉崎保健福祉センター

[事業報告書 P43]

○利用者数

区 分	R6 年度	R5 年度	増 減
地域福祉センター	35,457 名	43,410 名	△7,953 名
老人福祉センター	14,614 名	13,262 名	1,352 名
児童館	8,290 名	8,808 名	△518 名
合 計	58,361 名	65,480 名	△7,119 名
開館日数	338 日	344 日	△6 日
1日当たりの利用人数	172.7 名	190.3 名	△17.6 名

※地域福祉センター休室

体育室 R6.4.1～R6.9.30

※老人福祉センター休室

男性浴室 R6.7.10～7.14、R6.12.12～R7.1.6

女性浴室 R6.4.1～7.14、R6.12.12～R7.1.6



●地域福祉センター
「アネッササマフェスタ大作戦」



●老人福祉センター
「ハンドメイド教室」



●児童館
「キッズボランティアクラブ」

体育室の休室のため利用者は減少しましたが、アネッササマフェスタなどを実施し、世代間交流や地域の絆づくり、居場所づくり等が図られました。
また、児童館では小学生が利用しやすい環境づくりを行ったことで小学生の居場所としての利用が増加しました。

三和保健福祉センター

[事業報告書 P48]

○利用人数

区分	R6年度	R5年度	増減
地域福祉センター	10,357 名	11,179 名	△822 名
老人福祉センター	2,587 名	7,034 名	△ 4,447 名
児童館	9,185 名	2,857 名	6,328 名
障がい者福祉センター	12,817 名	13,100 名	△283 名
合 計	34,946 名	34,170 名	776 名
開館日数	339 日	344 日	△5 日
1日当たりの利用人数	103.1 名	99.3 名	3.8 名

※地域福祉センター休室

多目的ホール R6.7.8～R7.9.12

※老人福祉センター休室

浴室 R6.4.1～R7.3.31



●地域福祉センター
「サンハートまつり」



●老人福祉センター
「絵手紙教室」



●児童館
「親子でミュージック」

サンハートまつりなど事業や障がい者団体との連携をととして、地域交流の促進やボランティア意識の高揚のほか高齢者向け事業により、生きがいづくりや健康意識の増進を図りました。児童館は各種事業を開催し、親子のふれあいの場や育児不安の解消と情報交換の場の提供により子育て支援の取組を推進しました。

南部保健福祉センター

[事業報告書 P53]

○利用人数

区分	R6年度	R5年度	増減
地域福祉センター	12,985 名	15,014 名	△2,029 名
健康増進室	20,726 名	20,260 名	466 名
老人福祉センター	3,850 名	3,888 名	△38 名
児童館	3,421 名	3,193 名	228 名
障がい者福祉センター	9,320 名	9,101 名	219 名
合 計	50,302 名	51,456 名	△1,154 名
開館日数	338 日	342 日	△4 日
1日当たりの利用人数	148.9 名	150.5 名	△1.6 名

※健康増進室歩行用プール及びジャグジー休室 R7.2.26～3.31 (熱源機故障)



●老人福祉センター
「健康体操教室」



●地域福祉センター
「なのはなフェスタ」



●児童館
「乳幼児の為の救急法」

地域福祉センターの利用団体は固定化傾向にありますが、事業に工夫、趣向を凝らしながら広く参加を呼びかけ来館者数の確保に努めました。また、中高年増進施設は新規登録者も増え、健康増進を目標に充実感をもってご利用されています。

福祉避難所開設運営訓練の実施

[事業報告書 P58]

○福祉避難所開設運営訓練

期日	2月11日(日・祝)
場所	市原市姉崎保健福祉センター
参加者	51 名
内容	福祉避難所開設・運営マニュアルに基づく訓練 市との連携確認、避難所の開設準備、避難者の受入れ

協力団体：姉崎地区社協、有秋地区社協、千種地区社協、姉崎地区民児協、有秋地区民児協、千種地区民児協、市原市総務部危機管理課、市原市保健福祉部共生社会推進課



本会が管理する指定管理施設において、災害時に福祉避難所の開設、運営が迅速・円滑に行えるよう、各施設が策定した「福祉避難所開設・運営マニュアル」に基づき、地域関係団体の協力のもと、開設運営訓練を実施しました。訓練を経て把握した課題の整理・検証を行い、今後も継続的な訓練を実施していくことで職員の避難所運営スキルの向上、地域の福祉関係者と連携した運営体制の構築に努めていきます。

市内における地域福祉活動者の活動状況

令和6年度活動状況

	R6年度	R5 年度	増減
延活動日数	4,601 日	4,438 日	163 日
延活動者数	27,374 名	24,564 名	2,810 名
延活動時間数	13,751 時間	12,848 時間	903 時間
延参加者数	39,911 名	35,515 名	4,396 名

令和6年度は、新型コロナウイルスの5類移行から月日が経ったこともあり、事業の再開や新たな取組の展開など多くの活動が行われました。それぞれの地域で多くの皆さまにご尽力いただいたことで、事業への参加者や利用者数が大きく増加しました。